

事業名

平成24年度福島県男女共生センター未来塾 「つながりひろがる女子“防災”力UPセミナー」

実施センター 福島県男女共生センター「女と男の未来館」
施設名 福島県男女共生センター「女と男の未来館」
福島県二本松市郭内一丁目 196-1
Tel. 0243-23-8301 (代表) Fax. 0243-23-8314
E-mail. mirai@f-miraikan.or.jp
URL <http://www.f-miraikan.or.jp>
指定管理者 財団法人福島県青少年育成・男女共生推進機構

センターについて 福島県男女共生センター「女と男の未来館」は、男女共同参画社会の実現を目指して県民が主体的に男女共同参画についての問題に取り組み、豊かな人生を送るための実践的活動拠点として設立された施設で、「情報機能」「自立促進機能」「交流機能」の3つの機能を柱に、以下のとおり事業を実施している。①情報機能…図書室の運営、男女共同参画に関する情報収集・発信、当センターの活動についての広報活動、調査研究等②自立促進機能…男女共同参画の意識啓発のための事業、人材育成のための研修、女性・男性の生き方や女性の就業に関する相談等③交流機能…団体同士の交流・ネットワーク形成支援、団体・個人の自主活動の支援等

事業内容の紹介

災害時の被災者支援や復興、防災・減災などのさまざまな分野において、男女共同参画やジェンダーの視点を持ち、多様な専門機関等と連携しながらより積極的に活動できる女性を育成・支援するために開催した5日間のセミナー。

主に東日本大震災および東京電力福島第一原子力発電所事故による復興・被災者支援の現場で実際に活躍中の方々を講師として、災害と男女共同参画に関する基礎知識を得るための講義、協働して合意形成を図るためのワークショップ、自分の考えや意見をうまく伝えるコツを掴むためのトレーニング、避難所運営のシミュレーションなど女性のエンパワーメントにつながるような実践型のワークショップ等を行った。

実施までの経緯

当センターでは平成13年に開館して以来毎年継続して（平成23年度は実施見送り）、男女共同参画の視点を持ちながら地域で活動できる人材を育成するための事業を実施している。主に女性を対象としており、これまで「地域づくり」や「政治参画」などのテーマでセミナーを行ってきた。

東日本大震災及び東京電力福島第一原子力発電所事故の後、福島県全域で防災・復興に対する意識が高まる一方、防災・復興分野において意思決定に参画している女性や組織のリーダー・中核として活動している女性の割合が男性と比べて少数であること、また、男女共同参画やジェンダーの視点で活動し

ている団体が少ないことから、結果として、女性に必要な支援や女性の声が届きにくいという現状がある。

また、震災及び原発事故の後、地域の女性団体と当センターが協働して避難所における女性専用スペースの運営支援を行った経験から、男女共同参画やジェンダーの視点に立った避難所運営・被災者支援の必要性和自治体・男女共同参画センター・団体等が連携・協働することの重要性を改めて再認識した。

以上の理由から、防災・復興分野における女性の人材育成・支援が必須であるため実施することとした。

学習プログラムの概要

1 目的

「地域における防災・復興」をメインテーマとし、災害時の被災者支援や防災・減災、復興の分野において、男女共同参画の視点に立ち、他者・他機関との連携・ネットワークを図りながら積極的に活動できる女性の人材育成を目指す。

2 日時

平成24年 10月13日(土) 13:45～16:45
 14日(日) 10:00～16:00
 20日(土) 10:00～15:00
 11月 3日(土) 10:15～16:00
 4日(日) 10:00～15:45

3 会場

福島県男女共生センター第2研修室、研修ホール

4 対象

女性(NPO・団体、自治体、教育・医療関係者、学生、他関心のある県民)

5 内容

①講話「福島県の防災・復興と男女共同参画の状況」
 講師：松崎健一さん(福島県青少年・男女共生課長)

②講義「女性×男性の視点で総合防災力アップ」
 講師：浅野幸子さん(東京女学館大学非常勤講師)

③ワークショップ「協働のための提案力を磨こう」
 講師：服部篤子さん(CAC-社会起業家研究ネットワーク代表)
 ※この回のみ公益財団法人日本女性学習財団との共催

④「自己尊重・自己主張トレーニング ～いざという時にこそ”ガマン”しない女子でよう！」
 講師：丹羽麻子さん(女性の自立を応援する会 ※現NPO法人ウィメンズスペースふくしま)

⑤講義「多様な専門機関、専門家、ボランティア等との連携・協働がなぜ必要か」
 講師：天野和彦さん(福島大学うつくしまふくしま未来支援センター)



⑥ワークショップ「シミュレーション～未来館が避難所になったら？」

講師：天野和彦さん（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター）

北村育美さん（中越防災安全推進機構、現おだがいさまセンター派遣）



⑦振り返り 男女共生センター職員

学習プログラムの具体的構成

第1日目(平成24年10月13日)

時間	学習内容	ねらい
13:30	主催者あいさつ 福島県男女共生センター 館長 千葉悦子	
13:45 ～ 14:30	講話 テーマ「福島県の防災・復興と男女共同参画の状況」 講師：松崎健一さん（福島県青少年・男女共生課長）	福島県の男女共同参画、防災・復興の基礎、現状を知る
14:45 ～ 16:45	講義 テーマ「女性×男性の視点で総合防災力アップ」 講師：浅野幸子さん（東京女学館大学非常勤講師）	防災・復興と男女共同参画の基礎を学ぶ

第2日目(平成24年10月14日)

公益財団法人日本女性学習財団との共催事業

時間	学習内容	ねらい
10:00	主催者あいさつ (公財)日本女性学習財団 学習事業課長 黒澤あずさ	
10:10 ～ 16:00	ワークショップ テーマ「協働のための提案力を磨こう」 講師：服部篤子さん（CAC一社会起業家研究ネットワーク代表） ～プログラム～ <午前>（約110分） ・協働とは何かについての講義 ・ワーク「情報発信のコンテンツを考える」（テーマの設定） ※休憩（約60分） <午後>（約180分） ・ワークの続き（提案書の作成） ・グループごとにプレゼンテーション	協働とは何かを学び、多様な主体と協働するための提案力の向上を目指す

第3日目(平成24年10月20日)

時間	学習内容	ねらい
10:00 ～ 15:00	自己主張・自己尊重トレーニング テーマ「いざという時にこそガマンしない女子でいよう」 講師：丹羽麻子さん（女性の自立を応援する会 ※現 NPO法人ウィメンズスペースふくしま） ～プログラム～ <午前>（約120分） ・女性・男性のおかれている現状を知るための講義とワーク ・グループごとの発表 ※休憩（約60分） <午後>（約120分） ・相手を尊重しつつ自分の考えを伝えるための自己主張ト レーニング	ジェンダーや性別役割分担について 気づき、男性社会において女性が自 分の考えを相手に伝えるためのコ ミュニケーション能力の向上を目指 す

第4日目(平成24年11月3日)

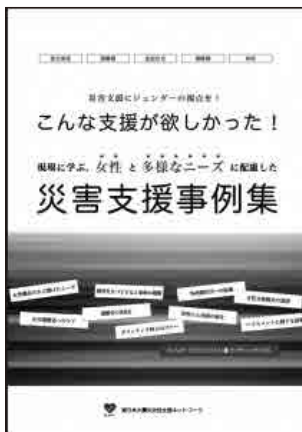
時間	学習内容	ねらい
10:15 ～ 11:45	講義 テーマ「多様な専門機関、専門家、ボランティア等との連 携・協働がなぜ必要か」 講 師：天野和彦さん（福島大学うつくしまふくしま未来 支援センター）	なぜ他機関との協働が必要なのか、 連携・協働の意味、意義を実践例を 元に学ぶ
11:45 ～ 13:00	休憩	
13:00 ～ 16:00	ワークショップ テーマ「シミュレーション～未来館が避難所になったら」 講師：北村育美さん（中越防災安全推進機構、現富岡町お だがいさまセンター派遣）、天野和彦さん ～プログラム～ シミュレーション準備 ・福祉避難所に必要な視点についての講義 ・館内見学 ・作戦会議	避難所運営に必要な視点を学び、運 営者の立場として避難所運営ゲーム を体験することで災害時・非常時 における判断力・実践力の向上を目指 す

第5日目(平成24年11月4日)

時間	学習内容	ねらい
10:00 ～ 14:00	ワークショップ テーマ「シミュレーション～未来館が避難所になったら」 （前日の続き） 講師：北村育美さん、天野和彦さん ～プログラム～ <午前>（約120分） ・避難所運営シミュレーションゲームHUG 休憩（約60分）	避難所運営に必要な視点を学び、運 営者の立場として避難所運営ゲーム を体験することで災害時・非常時 における判断力・実践力の向上を目指 す

	<午後> (約60分) ・振り返り、発表	
14:00 ～ 14:15	休憩	
14:15 ～ 15:45	全体振り返り 振り返りシートの記入 感想等の発表	自身の気づきや課題を発見・整理し、全員で共有する

教材 (例)



浅野幸子氏資料
『こんな支援が欲しかった！
～現場に学ぶ、女性と多様なニーズに配慮した災害支援事例集』
(発行 東日本大震災女性支援ネットワーク)



服部篤子氏資料
『学習支援ハンドブック
ー協働の時代の学びと実践』
(発行 公益財団法人日本女性学習財団)

自己主張してみよう

2012.10.20 福地県男女共生センター
平成24年度日本郵政・コトラー「つながりひろがる」女子“防災”力UPセミナー
『自己主張のススメーコトラー「つながりひろがる」女子“防災”力UPセミナー』

例：友人がいつも食べられないほどの物をくれるが、夫と二人家族だし家も親戚から、食べきれずいつも無駄にしているのが気がかり。

相手と言った影響として心配なこと	起きていること(がら)、事情	その事情に対する気持ち
相手は悪意なのに断ったら人間関係が悪くなるのでは 相手を傷つけるのでは 返々しく思われるのでは	どんなに頑張って食べても家族も少ないし、実家も親戚から分ける人もいない たくさんもらっても食べきれなくて残してしまう 好意を無駄にしてる気がする	いただくなら適量だと助かるしうれしい いただけるのはありがたい 気兼ねなくつきあっていきたい
既婚	私の状況 うちは夫婦二人だけで、結局食べきれなくて、かえってあなたの厚意を無駄にしている気がしてしまうのだから。	私の気持ち ちょっと食べきれないくらいでいいから、私も気兼ねなくいただけるし、ありがたいんだ。

例：避難所では女性が断りをする場所もなく、受取する母親たちも胸元をじっと見る男性がいてつらいと感じ合っていた。支援物資として南立の寝材が届いたが、すると避難所のリーダーが「みなさん、わたしたちは同じ敷内に暮らす“家族”です。だから断りはいらないですね」と言った。
★どのように意見しますか？

言った影響として心配なこと	事情(こと(がら))	その事情に対する気持ち
既婚	私(女性たち)の状況	私(女性たち)の気持ち

丹羽麻子氏資料 (講師作成)

企画時や実施時に工夫したこと

実践力を身に付けられるようワークショップを中心とした。また、受講者同士が話し合ったり、発表したりする時間を多くしたことで、交流会などを開催しなくても交流を深められ、人前で話をするにも慣れるというエンパワーメントに自然とつながるような内容とした。

“防災と男女共同参画”といった難しくとられがちなテーマ・内容について、女性に身近に感じてもらえるように、タイトルを「未来塾」という事業名とは別に「女子“防災”力UPセミナー」として、従来の当センターの利用者のみならず、利用経験のない方や若い世代も参加しやすいようにした。その結果、タイトルが目にとまったという方からの参加が複数あった。

女性の関心を集めるために、女性向けの雑貨や服飾などからイメージしたポップで目を引きやすいチラシを作成して県内全域に広報したほか、館内の女子トイレの個室で一番目につきやすいところに掲示した。

受講者の学習支援のため、最終日には、アンケートや感想を記入するだけでなく、振り返りの時間を設けて予め用意した振り返りシートに記入することで、参加者個人の学習課題や気付きを整理し、当センターがとりまとめたものを後日郵送して全員で共有した。

参加者の声

「防災・復興・支援の決断の場面に女性が複数いることが大切で、それが計画に女性の視点を入れることにつながると思った。ただし、ただいればよいというわけではなく、人間性や能力が問われるので教育や経験が必要だと感じた。」

「このセミナーのことをフェイスブックで発信したところ、復興に関わる若い男性から“興味がある”“参加したい”との反応があった。このようなセミナーが男女共に受講できたら素晴らしいと思う。」

「女性にとってはまだまだ生きにくい社会だと実感した。特に非常時にはそれが大きく表れることを知ったが、だれもが生きやすい社会にしていくための手がかりを得ることができた。」

「もっと女性が声をあげていかなければならないという思いを強くした。」

今後の実施に向けた課題

対象者を女性限定としたが、「男性の理解も必要」「男女がともに学べるとさらに良い」という受講者の声もあったように、男女が共に学べる場とするよう、テーマに応じて男性も参加できるようにする。参加要件として、原則5日間全日程参加可能な方としたため、実際の参加者があまり増えなかった。受講生のうち、全日参加できたのは2割程度であったことから関心があっても、仕事や家庭の事情で5日間参加できない方が多数いると推測されるので参加要件を再検討する必要がある。

セミナーの目的は、防災分野において実践活動をする女性の育成であるが、現実には女性が地域のリーダーとして活動したり、意思決定に参画したりする機会は防災分野に限らず少ない、また、活動していても学んだことを活かして実践したり、地域の住民や組織内での理解を得るといったことは難しいため、問題に気付き・行動することの大切さを学習するのみでとどまってしまう。女性たちが行動を起こすには、受講しただけでは十分とは言えず、継続してフォローしていく必要がある。学習成果を実践につなげられるよう、当センターがいかにサポートできるかが今後の大きな課題と考える。

また、受講生の声や学習の成果を県の施策やセンターの他の事業にいかに結びつけるかということも課題である。